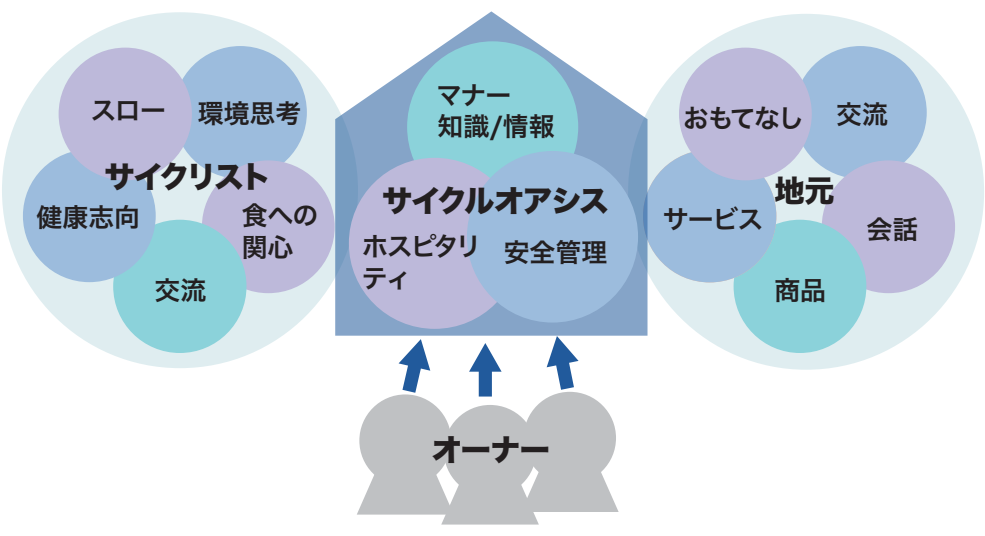
旅を支えるおもてなし空間「サイクルオアシス」

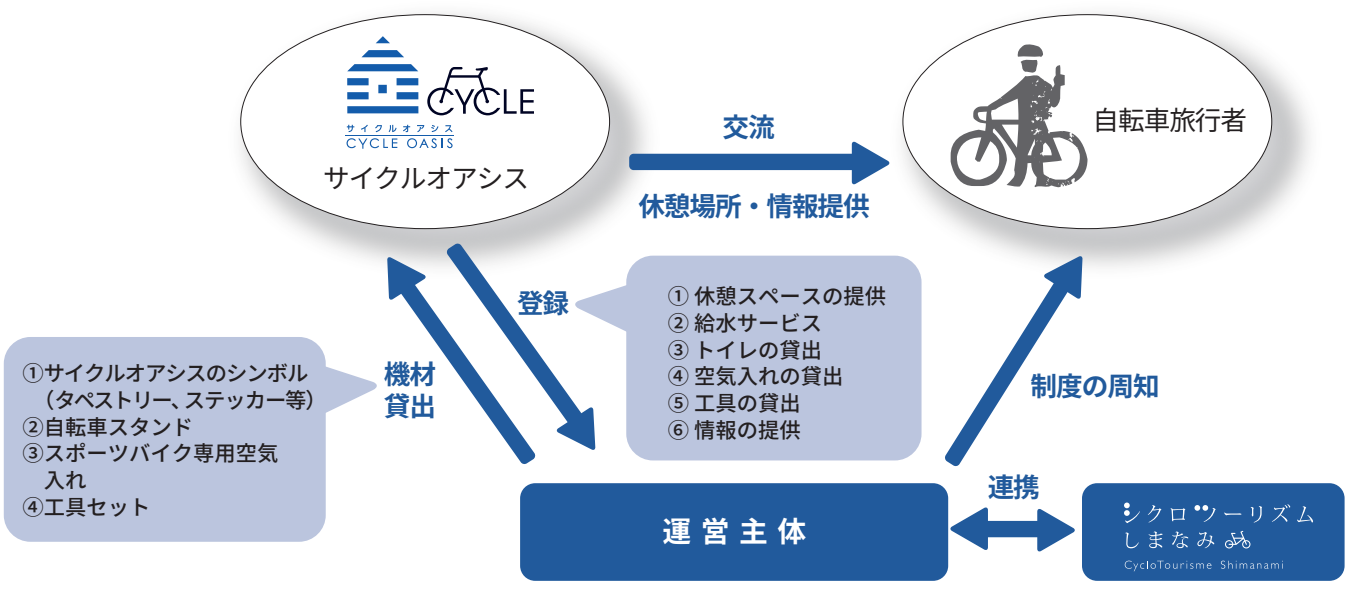
サイクルオアシスのコンセプト

地域の生活や風土を肌で感じることが出来るのは、自転車旅行ならではの魅力です。ゆっくりと回遊しながら、何気ないあいさつにつながりを実感し、随所で住民からの温かいおもてなしを受ける。そんな有機的なつながりを生み出す場所としてサイクルオアシスは誕生しました。

担い手の発案から生まれたしくみは、公募スタイルをとりながら、ネットワークを拡充。住民の主体的な運営は開かれた組織として、自転車旅行の基盤となっています。



《サイクルオアシスの仕組み》



ビジョン　自転車旅行の振興は自立と共生の新たな地域づくり

ミッション　地域に根ざした住民参画型のしくみづくり

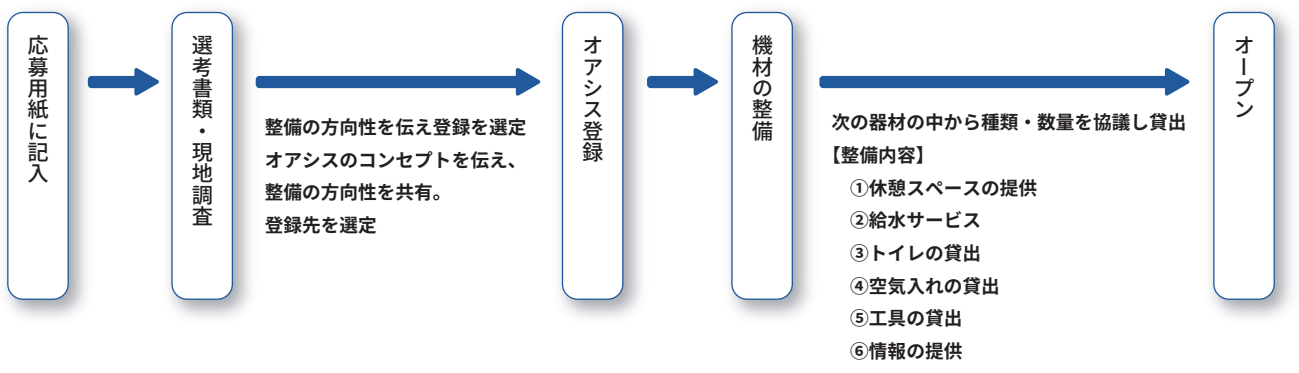
サイクルオアシスオープンまでの経緯

2011年の夏、自転車旅行者の休憩所「しまなみサイクルオアシス」が誕生するまでには、次のようなステップがありました。

年 代	活 動 実 績	住民の思い	地域の変化
2005～	**「自転車モデルコースづくり事業」** 自転車で渡れる橋を地域ブランドに育てる取組のきっかけ。島で静かな空間をゆっくり堪能できる自転車コース提案。	観光振興への主体性は低め。	自転車は一部のマニアの世界。
		自転車旅行の振興がまちに効くのか不安。	
2007～	**「しまなみ資源活用プロジェクト」** 自転車旅行振興が地域活性化へつながるかの検討。WEBアンケート調査・モニター調査を住民が実施。	まちづくりの担い手が徐々に参画。	首都圏で沸き起こる自転車ブーム。
		車の旅とは違うスタイルに可能性を発見。	
2008～	**「しまなみスローサイクリング協議会」** 島を超えたネットワーク組織を設立。 地域資源の発掘・発信等、できることを手づくりで実践。	サイクリスト向け受入サービス意欲向上。	No.1の自転車道として認知度向上。
		島での滞在・周遊促進という新たな課題。	
2011～	**「しまなみサイクルオアシス」** ニーズ（休憩・トラブル対応）を受け、身の丈のサービス化。住民の有志が軒先を開放する「自転車の駅」を具現化。	試行錯誤より、まず一歩。 社会実験的取組。	しまなみ海道の人気急上昇。
		住民参画のオアシスがしまなみブランドの根幹。	

サイクルオアシスになるためには（認定の流れ）

サイクルオアシスになるためには応募からスタートし、次のような段階を踏んでいきます。



《サイクルオアシスの 5 つのサービス》

サイクルオアシスには最低限、次の5つのサービスの提供をお願いしています。

空気入れ
米／仏／英バルブ対応など、スポーツバイクに最適なフロアポンプを設置してください。自由に使えるよう、配置してください。

休憩所
腰を下ろせるベンチを設置してください。店舗内の適当な休憩スペース開放でも構いません。青空空間の場合は木陰があると喜ばれます。

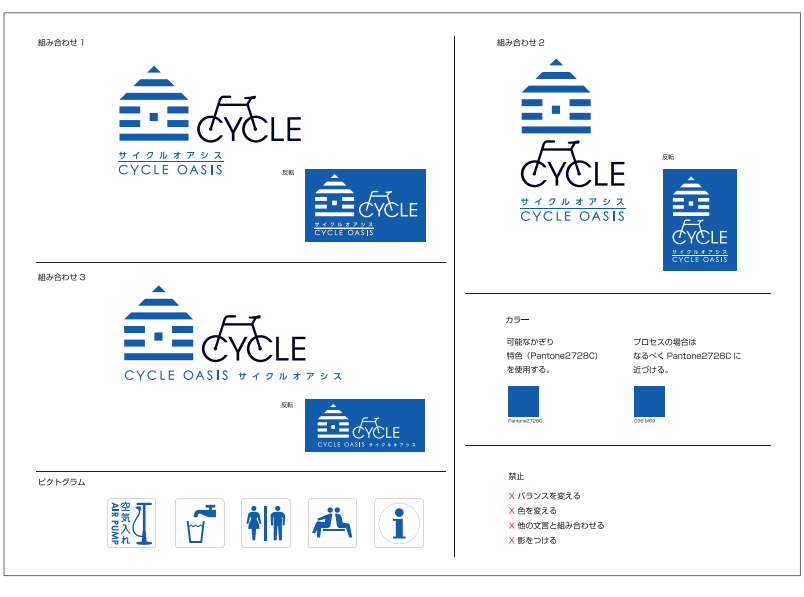
給水
ボトル給水サービスを無料で実施してください（飲料水であれば、水道水で構いません）。お声かけに応じて、サイクリストが保有しているマイボトルに注入ください。

インフォメーション
地元情報を揃えてください。「しまなみ海道」では、坂の勾配など自転車で走るための情報が満載の地図、自転車目線のガイドブックを常備しています。

トイレ
お声がけに応じて、トイレの貸し出しをお願いいたします。不在時は貸し出しができなくても認定できます。ご相談ください。

共通のタペストリーが目印

サイクルオアシスの目印は「家」と「自転車」がデザインされたタペスリトリーです。

《タペストリー》

《シンボルマーク活用マニュアル》